

～すべての児童が「分かる」「できる」授業づくりを～

- 国語科では、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」〔伝統的な言語と国語の特質に関する事項〕の3領域1事項に、2学年ごとに指導事項が示されています。示された指導事項を確実に児童に指導し、身に付けさせることが国語科の役割です。（指導事項は、小学校学習指導要領解説国語編のp130～137に一覧で掲載されています。）

単元の指導計画の作成に当たっては

- どの領域のどの指導事項を指導するのか明確にします。
- 指導事項を指導するために適切な言語活動を位置付けます。
- 単元で指導した指導事項が確実に身に付いたかを把握するとともに、児童自身も学んだことを確認できるようにします。

指導事項を確実に身に付けさせるための1単位時間の授業

| 過程  | 児童の姿  | 教師の働きかけ   | 授業改善の視点  |
|-----|---|---|--|
| 導入  | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 課題をつかみ、主体的に学習に取り組もうとする。</li> <li>□ 解決への見通しをもっている。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題や課題提示の仕方を工夫し、解決への意欲を高める。</li> <li>○ これまでに学習したことを想起できるようにする。</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>指導事項を踏まえ、日常生活の具体的な場面を想定した課題を工夫する。</li> <li>前の学年（単元）でどんな読み方、（話し方、聞き方、書き方）をしたか再確認する。</li> </ul>                                       |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 既習事項や新たな考えを生かして言語活動に取り組んでいる。</li> <li>□ 学び合いを通して考えを明らかにしたり深めたりしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身に付けている「話し方・聞き方」「書き方」「読み方」を生かし、新たな考えをもちながら取り組むよう促す。</li> <li>○ 課題解決に向けた学び合いとなるよう、目的を明確にし、発問を工夫する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことやその理由など、自分の考えを書いてまとめる活動を充実させる。</li> <li>子どものつまずきを見逃さず、適切な助言をする。</li> <li>「結論を出す」「共通点を見出す」「発想を広げる」など、学び合いの目的を具体的に示す。</li> </ul> |
| まとめ | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学んだことを振り返り、理解しようとする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの考えを生かし、本時の目標に照らしてまとめを行う。</li> <li>○ 課題解決のためにどんな「話し方・聞き方」「書き方」「読み方」をしたか確認をする。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題に合ったまとめを行う。</li> <li>学習内容の定着状況を把握する方法（自己評価、小テスト、ノート）を工夫する。</li> </ul>   |

※ 1単位時間の授業展開については、上記の授業展開を基本として、学年の発達の段階や領域に応じて工夫することが大切です。

学習の定着を図るために

- ☆本時に学習した内容と関連する宿題を出しましょう。
- ☆学んだ漢字や語句を使ってノートに書くよう指導しましょう。
- ☆分からない漢字や語句を辞書で調べる習慣を身に付けさせましょう。
- ☆字数や用いる語句など、条件を示して話したり書いたりする活動を位置付けましょう。
- ☆単元ごと、学期ごとなど長期的に学習したことを振り返り、定着状況を把握しましょう。（チャレンジテストの活用）

～すべての児童が「分かる」「できる」授業づくりを～

「知識・理解、技能」の定着を重視した1単位時間の授業

- 本時で身に付けさせる知識や技能を明らかにしましょう。
- 児童一人一人に確実に身に付けさせることができるよう、学習過程の各段階の時間配分を工夫しましょう。

| 指導過程               | 児童の姿   | 教師の働きかけ   | 授業改善の視点  |
|--------------------|--|---|--|
| 問題把握               | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ <u>問題を理解し、解決への見通し</u>をもっている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 興味・関心を高め、疑問を引き出す問題を工夫する。</li> </ul>  | <p>問題の提示に時間をかけすぎないようにする。</p>   |
| 自力解決<br>・<br>集団解決  | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ <u>既習事項等</u>を生かし、図や式などを用いて問題解決に取り組んでいる。</li> <li>□ 「<u>学び合い</u>」を通して、考えを明らかにしたり深めたりしている。</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既習事項を根拠に自分の考えを筋道を立てて分かりやすく表現するよう促す。</li> <li>○ 本時の目標に迫る「<u>学び合い</u>」となるよう、発言や考えを整理する。</li> </ul> | <p>言葉や図、式などで自分の考えを書いたり説明したりできるように指導する。</p> <p>目指す「<u>学び合い</u>」のイメージを明らかにし、学習形態、指名順や発問等を工夫する。</p> |
| まとめ                | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 学習した内容をノートなどにまとめ、理解している。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の考えを生かし、本時の目標に沿って学習内容をまとめる。</li> </ul>   | <p>ノートや発言、練習問題の解答状況等から児童の学習状況を把握する。</p>  |
| 練習問題<br>定着の時間を確保する | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ <u>練習問題</u>を通して学習した内容が、しっかりと身に付いたか確かめている。</li> <li>□ 身に付いていない内容について、<u>再度練習問題</u>を行い、定着を図っている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>練習問題</u>を通して、<u>学習内容の定着</u>を確認する。</li> <li>○ 十分身に付いていない児童を把握し、学習状況に応じて指導する。</li> </ul>        | <p>習熟の程度に応じて、個別学習、グループ学習等の学習形態を工夫する。</p> <p>定着の状況に対応できるように複数の練習問題などを準備する。</p>                    |

※ 1単位時間の授業展開については、上記の授業展開を基本として、学年の発達の段階や領域、指導内容に応じて工夫することが大切です。

家庭学習を視野に入れた指導

家庭学習では次のような課題を準備し、本時の授業との関連を図りましょう。

☆本時の練習問題を通して、学習したことをもう一度振り返る。

☆チャレンジテストを通して、学習したことを活用して新しい問題に取り組む。

単元の指導計画の作成に当たっては

- 学習内容が十分に身に付いていない児童が、学び直したり、繰り返し学習したりすることができる時間を位置付けることが大切です。
- 単元の節目や終末の授業では、練習問題に取り組む時間を適切に設定するなど、「定着」に重点を置くことが大切です。

